



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

アフガニスタン：オバマ大統領の声明

5月25日、米国のオバマ大統領は、4回目のアフガニスタン訪問を行い、カブールの北にあるバگرام空軍基地を訪問して米軍将兵を激励した。2日後の27日、オバマ大統領はとホワイトハウスでアフガニスタン政策についての声明を読み上げた。同声明では、米軍部隊の戦闘任務は2014年末で終了し、2015年からはアフガニスタン軍が戦闘任務を担い、米国人は軍事顧問として残るとした。現在3万2000人の駐留部隊を、2015年に9800人に削減し、同年末までにさらに半減させる。部隊は、カブールとカブール北にあるバگرام空軍基地に配備する。2016年末までには、カブールの米国大使館警備のための部隊が残るだけにするとした。オバマ大統領は、2015年以降も米国がアフガニスタンに駐留するためには、アフガニスタンが米国との安全保障協定に署名する必要があるとし、決選投票に残っている二人の大統領候補は同協定に署名するとしているため、その要件は満たされるだろうと述べた。

オバマ大統領は、アフガニスタンとの関係は戦争だけではないとし、アフガニスタンへの財政支援、復興支援、外交的支援を継続するとした。アフガニスタンは理想郷ではないが、そうするのはアフガニスタン人の仕事であり、米国は国益を守りながらアフガニスタン人を支援するとした。

2012年5月、米国のシカゴで開催されたNATO首脳会議は、2014年末までに戦闘任務を終了させることを決定した。2015年以降に残る米軍部隊の規模について、国防省は2013年はじめ頃から残留兵力についての選択肢をホワイトハウスに提示し、2014年1月時点ではホワイトハウスは8000人から1万2000人の間で検討していると報道されていた。また米軍が2015年以降もアフガニスタンに駐留するため、両国は安全保障協定についての協議を行い、2013年11月には協定案で合意したが、カルザイ大統領が在任中の署名を拒否したため、カルザイ政権とオバマ政権の関係が緊張している。

5月27日、デンプシー統合参謀本部議長は、オバマ大統領の声明発表の前にアフガニスタン軍の参謀総長に声明の内容を伝えたことを明らかにし、アフガニスタン軍側は、戦闘任務を引き継ぐための時間的余裕があると安堵感を表明したと述べた。同議長は、パキスタンにも事前に連絡していたことを明らかにした。

27日のNYT紙は社説で、アフガニスタンでの米国の戦争はあと2年半続くとし、米軍撤退後のアフガニスタン情勢が安定するか、また米軍やNATO軍が撤退した後、米国議会や国際社会がアフガニスタン支援を続けるかについて疑問を呈した。同社説は、オバマ大統領はアフガニスタンからの米軍撤退を約束したがそれが実現するのは、彼がホワイトハウスを去った時と同様になるとした。

(中島主席研究員)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799